子どもとメディア 北海道

第３７号
２０１９年
７月発行
今期第１号

発行が遅くなり
スミマセン。

「子どもとメディア北海道」の新インストラクターの活動が個性豊かに、それぞれの地域で始まりました！！

★昨年秋に開催された養成講座を修了し、その後も全国の関係者に認定されるための「デモ講演」などもクリアされ、今春誕生した「子どもとメディア北海道認定インストラクター」16 名。

それぞれの地域で、個性豊かに様々な活動を始められました。何名か紹介させていただきますね。

【まずは、諏訪代表や中谷も挑戦したことのない『自主企画』の学習会に挑戦した、札幌の中川（なかがわ）　朋恵（ともえ）さん。札幌だと自分で企画・実施することが、他の分野でも多いようで、「まずは、自分が学んだことをアウトプットしてみたい」との思いから挑戦されたそうです。勇気をもらえました！】

★　**5 月 6 日（月）10:00～11:30 「子どもと電子メディアの関わりを考える」**

場所：札幌エルプラザ研修室　　参加者：8 名

目的：「どのような関わり方が子どもの幸せに繋がるのか」を参加者ご自身が気づくこと

内容：・電子メディアの現状　・心身の発達への影響　・育ちにとって大切なこと
（AI 時代を生き抜くために）

感想など：参加者の知見からの意見や情報を頂いたり、参加者同士つながったり、学び合えた。
チャイルドラインの方より、電話をかけて話すことで悩みを小さくできるのに、スマホの普及で相談の電話が減っていて心配と言っていた。
参加者より電磁波の影響の情報を得てその後、電磁波の勉強会に参加し、スマホの出す高周波の悪影響を知り、次回この事も内容に含めたい。また、参加者に子育てコーチの方がいて、次回のコラボ開催につながった。

★　**6 月 11 日（火）10:00～11:30　「乳幼児のスマホとタブレット座談会」**

子育てコーチ石谷二美枝さんより提案があり、コラボ開催。

場所：札幌エルプラザ和室　　参加者：3 名　　内容と目的：5 月と同じと手遊びのレクチャー

感想など：
赤ちゃん連れのママもいて和室開催は良かった。
こうした場に来る保護者は、すでに問題意識を持っており、心配がないと感じた。
周知集客方式で問題意識をあまり感じていない保護者に電子メディアだけのテーマで来てもらうことは難しい。
おもちゃや絵本や子育て関連での講座の中で紹介するのがよいと思った。

【元々、講演会などをしていた経験があり、子どもとメディアの学習を経て、講演の内容に加えて活動している、いずれも札幌在住の　岸（きし）　春江（はるえ）さん、菊地（きくち）　三奈（みな）さん。　スマホやゲームの使用を抑えるならば、子ども達が他のどんな遊びをしたらいいのか、幼児なら大人がどんなかかわりをしたらいいのか、それらをセットにして伝えることが大切ですね。岸さんは、「読み聞かせ」の素晴らしさを、菊地さんは手作りおもちゃやコミュニケーションできるゲームの楽しさを伝えてくれています。】

★　今回は、菊地さんの講演後の報告を抜粋して紹介しますね。

乳幼児保護者のスマホ使用事例も共有致します。ほとんどが 0 歳・1 歳の保護者です。保護者に方は、

*童謡などを知らないのでスマホで調べて見せながら一緒に踊っています。

*この子が泣いて泣き止んだ時の動画を見せると泣き止むので泣いたら
　自分の泣き止んだ時の動画を見せています。

*今日遊んだ様子を「滑り台したね」「ブランコしたね」と見せています。

*英語の歌を聞かせています。画面は見せていません。

*遠方の祖父母とテレビ電話をしています。

そして、最後は必ず「この使い方はだめですか?」と続きます。「使い方には気をつけています」というニュアンスがあり、「それならいいですよ」と言ってほしい感じがします。
思っていた以上に 0 歳児に見せることが浸透しているように感じます。
はじめは遠回しに言っていたのですが、それでは伝わらないので最近ははっきり言っています。

「電源切ってください。乳児には必要ありません。泣いたらおむつなのかお腹がすいたのか抱っこなのか
お子さんの様子を見てあげてください。試行錯誤して信頼関係が育ちます。子どもが退屈していても動画を見せないで子どもは退屈のままで大丈夫です。子どもの歌を知らないなら知ってる歌でもいいし、うたわなくてもいいです。赤ちゃんのうちは、画面の音声じゃなくて人の声で関わってあげてください」
という趣旨なのですが、心配しすぎたり頑張りすぎる親御さんもいらっしゃるので、
「でも大人は、子どもが寝ている時に息抜きで使うのは大丈夫です。ずっと子どもにつきっきりじゃなくても、子どもが振り向いてママに共感してほしい瞬間を見逃さないようにしてくださいね」
というのもお話しています。

後半おもちゃかカードゲームをやるためメディアの話は 30 分前後ですが、先日の札幌市中央区子育て講座では以下のような感想をいただきました。

・普段スマホとの接し方で「このままで良いのかな？」と思っていたので、
今日は、ダメだとわかって良かったです。夫や母にも協力を求めるようと思いました。

・スマホの危険が知れて良かったです。

・スマホを見せてしまうことが多かったので、どれくらい子どもに悪影響があるのかなどを
学べてよかったです。子どもとの関わり方を見直すきっかけになったので、参加してよかったです。

・スマホ、テレビのことやおすすめおもちゃを聞けて、勉強になりました。

・今までいかにスマホにたよっていたか痛感しました。もっと子どもと遊んで会話したいと思います。

他には祖父母の方がお子さんを預かる時に動画を見せていたらやめられなくなって困っている、という事例も聞いています。
軽い気持ちで見せることが後に大変になるということを伝えていきたいですね。

【夏休み前の７月は、道内の小中学校では、「情報モラル教育」の講話などがたくさん開催されます。
電子通信業社の教室は無料のため、多くの学校で利用されているようです。そんな中、本格的な外部講師としては「はじめて」の挑戦をしてくれたのが、帯広市の**工藤　美栄子**さん、日高町の**野澤　みゆき**さん、厚真町の**櫻井　裕司**さん、**横山　守**さんです。私もそうでしたが、初めての児童・生徒向けの講話は、大変に緊張をして、内容を決めていくにも膨大な時間がかかりました。挑戦された皆さんは、数か月前から準備しやり遂げたことで、自信や次の目標も見えてきたようで、」頼もしい限りです。
今回は、工藤さんと野澤さんの報告を紹介しますね】

★工藤　美栄子さんの報告　(小学校の先生としての立場を生かしての実践です。)

今週の月曜日 ２２日に 私もインストラクターとして初の講話を行いました。
自校 稲田小学校 ５　６年生 180 名を対象に「ネット・ゲームから自分を守ろう～
知っておこう心と体への影響」という タイトルで 45 分間のお話をさせてもらいました。
流れは 事前アンケートにより　スマホ 保有率やはまっているゲームネット環境 などと　１ 日の生活時間を聞いていたので　それぞれが自分のネットとの関わり方を意識しているところから始めました。
TikTok やフォートナイトで盛り上げて それらの影響なついて 話していきました。
TikTok の最近の事例や SNS の危険性を伝え　ネットゲームの危険性を脳への影響　目への影響　睡眠への影響 と示していきました。
最後は 読書が脳に与えるいい影響について伝えて　将来の自分にとって今 どんな生活をするべきか 投げかけました。夏休み直前にできたことが良かったと思います。子どもたちの反応も感想を見るとよいもので 生活を見直したいといっている子がほとんどでした。

★野澤　みゆきさんの報告（読み聞かせなど地域活動を長くされている野澤さんです。）

古野さん作成 2017 年版高学年向けパワポ資料から抜粋して使用させていただきました。それに加えて、川島氏の本などからの情報の中から、伝えたいことをピックアップして話しました。直前に、一人、この事業について理解のある、町教育委員会職員さんから、社会教育の事業として、サポートしてくれるお申し出をいただきまして、当日同行、お手伝いいただきました。
日高町教育委員会社会教育課としても、これまでの、「就学前検診時の保護者向け講話」に加えて、今後は、児童生徒に向けた講話を準備していくべき、と考えていたこともあり、今回の一小学校からのオファーをきっかけにして、町内他の小学校でも、児童向け講話を実施することを検討していけるよう働きかけていくことにもなりそうです。

用意していたパワポ資料の最後までは、進みませんでした。というのは、
児童高学年 23 人という少人数のためもあるのか、あるいは、学校で、先生や外部の大人にゲームの話を堂々とできる、という雰囲気に安心したのか、あるいは、元々、ゲームに対する罪悪感(語弊があるかも知れませんが)が全くなかったからか、ハッキリとした理由はわからないのですが、どの児童も、あっけらかんと実に正直に、ゲームやりたい放題。。寝る時間もこんなに遅いよ！年齢制限も知ってるけど、やってるよ！の日常を吐露してくれて、前半は、私が質問して、児童が答える、実態把握で、その場にいらした担任の先生方もビックリな現状が飛び出したりして、顰蹙を買いそうですが、児童が、自分達の話をあまりにも明るく元気にしてくれて、盛り上がってしまったのです。

で、さんざん話を聴いてから、後半、身体にこんな影響もあるよ、という流れに持ち込みました。そうしたら、当たり前に知っているかな？多少は知っててやっているのかな？と予想していたことも、知らないでやっていたり、特に脳への影響や、ゲーム時間と成績との関係などについては、素直にビックリ仰天していて、
「脳が育たなくなったら、出来ることが少なくなる、ってこと？」
「あんまり長い時間ゲームやってたら、学校で習ったことも忘れるかも知れない、ってこと？」とか、「おおー！外遊び！脳にいいんだ！！おしゃべりもいいんだー！！やったー！！」と、「こんなことで脳が育つ」パワポ部分を見て、歓喜の声をあげたりもしていました。

途中、いくつかの場面で、「じゃ、こうだったら、どうなると思う？」「君は、どうする？」という質問を投げ掛けて、考えてもらい、自分の考えを発表してもらったりもしてみました。最後に、何人かに、感想と「今日から、自分がやってみること」を発表してもらい、終了いたしました。

45 分なので、あっという間に終わってしまいまして、反省点は多々あります。この時間内であれば、こっちじゃなくて、こっちの話を出した方が良かったな、とか、この話は削除で良かったな、とかまだまだまだまだ勉強不足でした。

お声かけいただいた教頭先生と担任の先生方からは、児童が話しやすい雰囲気をつくってくれたことに対してお礼をいただき、自分達も知らなかった児童の実態把握が出来たこと、先生方自身も知らなかった情報がたくさんあり、勉強になったこと、このことについては、学校が、どこまで家庭に関与できるのかということで難しいので、学校の教員ではなく、地域の大人から話してもらうのが一番ありがたいとのこと、次回は、是非、保護者の懇談会ででもお願いしたいことなどのお話がありました。

【「北海道の小中学生のスマホ・ゲーム・ネットの使用についての実態調査が、必要である！」との思いを持たれている方は多いと思います。「まずは自分の住んでいる管内から」と、個人で情報収集に奔走しているのが、宗谷管内豊富町の池田（いけだ）　亮子（りょうこ）さんです。すごすぎる！池田さん。似たような調査は、それぞれの学校などでも行っていますが、自分がきちんと把握してアンケートを読み解いていくのが大切だと思います。】

★池田さんの実践です。（ナカヤが付け足した表現もあります。）

豊富町では、「訪問型家庭教育支援チーム」がアンケートを行ったことがあります。（アンケートは保育園と小学校は保護者に配付・保護者が記入、中学校と高校は生徒に配付・生徒が記入でそれぞれ先生が回収）

しかしながら、その結果がどう生かされているのかがわかりづらかったり、他の近隣市町村との比較ができなかったりするので、もっと現状打開のために効果的なアンケートができないかと考えていました。

そのために、まずは自分が近隣の地区の情報を把握したくて、宗谷管内の市町村で同じような調査が行われているかを、宗谷振興局などに問い合わせ、勝手に調査しています。

現在、豊富以外の 9 町村への問い合わせがやっと終わり、必要な自治体には開示請求をする所です。

3 町村で未調査、2 町村で学校単位の調査結果があることが分かりました。

あとは解答待ちです。

結果がまとまったら改めて情報を発信しますね。

～～その後の動き～～

情報誌 36 号で『文部科学省の「原則学校への携帯電話持ち込み禁止を見直す」という発言があった。・・・・・今後、どのような方向性を文科省で提示していくのかしっかりと見ていきましょう。また、5 月にはWHOの「ネットゲーム依存症障害」についての正式な疾病認定についても発表があるはずです。アンテナを張っておきましょう！』と今後の国や自治体の動きに着目しましょうと書きました。

★ 文科省の見直し発言の発端は、「大阪府の小中学校への携帯電話の持ち込み許可」でした。その後、大阪府内でも様々な議論があり、結果的に**『小中学校における携帯電話の取り扱いに関するガイドライン』**が作成されました。（24ページに渡ります。検索してぜひ読んでみてください。会員の方には、別刷りで「保護者の皆様で」を配布しますね。）

「NPO子どもとメディア」の古野氏によると、
『大阪府教育庁の携帯電話持ち込みガイドライン』は、教職員間の膨大な議論の末、なかなかよいガイドラインになっています。「学校への持ち込みのガイドライン」ではなく、「小中学生が携帯電話を持つことに対してのガイドライン」になっています。

親の責任を明確に訴え、必要なことだけに使用し、
平日 30 分以内、休日 60 分以内、と決めています。

今年度、このガイドラインに従って、大阪府内の各自治体教育委員会が協議して、それぞれのガイドラインを作ることになると思います。」
ということでした。古野さん、情報提供、ありがとうございました。

★ WHO総会は、5 月 25 日、「ゲーム障害」を新たな依存症として認定した「国際疾病分類」最新版を承認しました。このニュースは、私の把握した限りでは、あまり大きく扱われておらず、残念です。
私の手持ちの新聞記事の中では、「北海道新聞」の記事が詳しかったので、数日後に上がっていた「「ゲーム障害」依存症認定韓国で反発」の記事も一緒に配布しますね。

★ 北海道は、6 月 4 日、18 歳未満の子どもに自らのわいせつな写真や動画を撮影、送信させる「自画撮り」被害の防止に向けた道青少年健全育成条例改正案の素案を明らかにしました。道内でも「TIKTOK」が発端になった「自画撮被害」があったりしたので、こういう動きを速めてほしいものです。関連記事をこちらも配布しますね。

★ 6 月 14 日に開催された日本小児眼科学と会日本弱視斜視学会の合同学会総会で、発表された「子どもや若者急性患者・スマホで内斜視？多発」に関しては、新聞でも大きく取り上げられていました。
ただ、児童生徒への講話などで話しても、「初めて聞いた」子がほとんどです。学会での調査研究をもとに警笛が鳴らされていることですので、しっかりと伝えていきたいものです。

H31 年５月から７月までの活動報告

月日	テーマ・内容	行事名・主催者等	担当
以下の 2 件は、ナカヤのミスで前号への掲載漏れです。(すみません)			
2018. １０月	読書の大切さ	札幌市北区小学校　家庭教育学級	岸
2019.1 月 25 日	スマホに頼らない子育て	芽室町育児ネット茶話会学習会	坂本
2019.5 月 6 日	子どもと電子メディアの関わりを考える	札幌エルプラザ 自主企画	中川
7 日	子育て･家庭教育支援について	白老ＪＣ5 月例会	中谷
18 日	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを深めるおもちゃとｱﾅﾛｸﾞｹﾞｰﾑ	育児ネットめむろ	菊地
23 日	赤ちゃんとの遊び方～育児アプリより簡単で効果的な遊びの力～	イコロ	菊地
24 日	おもちゃ de 遊ぼう!学ぼう!	OLU　OLU　HOUSE	菊地
	苫小牧保育士研修	苫小牧社会福祉協議会	菊地
28 日	白石区子育て支援者研修	白石区健康・子ども課・子育て支援係	菊地
30 日	子どもの発達への電子メディアの影響	ファミリーサポートセンター上川中部こども緊急さぽねっと子育て支援者養成講座	諏訪
31 日	中央区子育て講座	中央区保健福祉部健康・子ども課・子育て支援係	菊地
6 月 11 日	乳幼児のスマホとタブレット座談会	子育てコーチ石谷さんとのコラボ 自主企画	中川
	第二小・大麻西小(高学年向け)	江別市教育委員会	中谷
13 日	上江別小・対雁小(高学年向け)		
18 日	アナログゲーム講座	yurura(個人)	菊地
20 日	厚真中学校 電子メディアお悩み相談会	厚真町教育委員会	櫻井・横山
21 日	厚真中央小学校(3･4 年、5･6 年)		横山
27 日	絵本大好き!読み聞かせボランティアのポイント絵本と電子メディア	札幌市白石区保健センター	岸
	厚真中央小学校 電子メディアお悩み相談会	厚真町教育委員会	櫻井・横山
	上風連小・上西春別小(高学年)	別海町教育委員会	中谷
28 日	コミュニケーションを深めるアナログゲーム	しらかば台小学校家庭教育学級	菊地
30 日	絵本ってなにがいいの？スマホ・ゲームはどうなの？	ママとコとかち	岸
7 月 3 日	円山小学校　アナログゲーム講座	円山小学校家庭教育学級ライラック	菊地

	プロから学ぶ!絵本読み聞かせのポイント	フューリング絵本部	岸
	上厚真小学校 電子メディアお悩み相談会	厚真町教育委員会	櫻井・横山
5 日	プロから学ぶ!読み聞かせのコツ	十勝管内図書館協議会前期職員研修会	岸
9 日	プロから学ぶ!絵本読み聞かせのポイント	フューリング絵本部	
10 日	乳幼児期の子育て	ＮＰＯぷれいおんとかち(帯広市)	中谷
11 日	芽室中学校(全校生徒)	芽室中学校	菊地
7 月 12 日	身体の発達と病気	南富良野町ﾌｧﾐｻﾎﾟ講習会	諏訪
	上厚真小学校（５．６年） 情報モラル教室	厚真町教育委員会	横山
16 日	長万部マリア幼稚園子育て講座	長万部マリア幼稚園	菊地
17 日	江差幼稚園子育て講座	江差幼稚園	菊地
16 日	広陵中学校(全生徒+保護者)	中標津町立広陵中学校	中谷
17 日	平取中学校(全生徒)	平取町立平取中学校	
	厚南中学校 電子メディアお悩み相談会	厚真町教育委員会	櫻井・横山
20 日	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを深めるおもちゃとｱﾅﾛｸﾞｹﾞｰﾑ	育児ネットめむろ	菊地
21 日	月	ﾀｯﾁｹｱｻﾛﾝまるくと仲間たち	菊地
21 日	電子メディアが子どもに与える影響	すてっぷ東光　保護者交流会(保護者)	諏訪
22 日	稲田小学校（５，６年生対象） 「ネット-ゲームから自分を守ろう～知っておこう、体や心への影響」	帯広市立稲田小学校	工藤
	和光中学校（１，２年生） 情報モラル教育	苫小牧市立和光中学校	横山
	黒松内中学校(全校生徒)	黒松内町教育委員会	中谷
23 日	星の丘中学校(全校生徒)	伊達市立星の丘中学校	
24 日	厚賀小学校(高学年)	日高町立厚賀小学校	野澤
25 日	子育て支援センター：ニューママ・プレママ講座「アウトメディア講座①」	厚真町教育委員会	横山
	厚真中学校 情報モラル教室(全校生徒)		櫻井
26 日	平和小学校　親子アナログゲーム講座	平和小学校家庭教育学級	菊地
29 日	北光小学校　親子アナログゲー	北光小学校家庭教育学級	菊地

	ム講座		
31 日	ネットに関わる子どもたちの現状と校長がなすべきことについて	2019 年度　宗谷管内学校経営研究大会教育講演会	諏訪

新入会委員の紹介です！

梁田　健(やなだ　たけし)さん

私は現在、特別支援学校に勤務しています。

社会の移り変わりに伴い、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、生きにくい状況下と感じています。

その中でも『ネット社会』は、人間にとってマイナス要因が非常に多く、危惧しています。

経験を述べると、就労せずにネット世界にどっぷりつかり、その中でトラブル発生。

一方では、保育園カンファレンスで、子どもが無制限に「YOU　TUBE」を見続けている話。

つまり、未来の大人たちを守りたく、何らかの知識や情報を得たく、入会しました。

どうぞよろしくお願いします。

★　**9 月 20 日(金)　午前 9 時頃～12 時まで**

札幌のエルプラザで、**「NPO子どもとメディア」の古野陽一氏をゲスト**に招き、「子どもとメディア北海道」主催で、会員同士の研修会を開きます。
参加希望の方は、事務局の中谷まで連絡して下さい。参加料は無料です。

★ 新しくリニューアルされた「子どもとメディ北海道」のホームページをご覧くださいませ。

http://kodomomedia-hk.com/　　インストラクターの**厚真町の櫻井さん**が、ボランティアで作製して下さいました。今後も更新を担当して下さることになりました。管理費にも満たないのですが、会費から年間で 5000 円を、櫻井さんに管理費の一部として支払いたいと思います。

★ 2018 年度の収支決算書を同封しました。2018 年度は、インストラクター養成講座の受講者が多かったことから、NPOからの養成講座配当金が入り、これまでにない収入となっております。
今後は、 上記のホームページの管理費の他に、9 月 20 日の研修会のように、年に 1 回でも当団体主催の研修会や交流会を行い、その際の会場費や些少の講師謝礼や事務局交通費などを支出したいと考えています。収支決算書や今後の支出について、ご意見・ご質問のある方は、お手数でも事務局までご一報くださいませ。